

日本映画放送株式会社 第76番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和3年2月16日（火）付
2. 開催方式：新型コロナウイルス感染拡大にともなう緊急事態宣言発令中につき、レポート提出という書面開催にて実施し、ご意見・質問を受け付けました。
3. 委員（順不同・敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・砂川 浩慶・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎

放送事業者：代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
執行役員編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部長	小川 英洋
編成制作部	三宅 歩
編成制作部	塚田 洋子
編成制作部	小林 良弘
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題

- (1) 審議事項：日本映画専門チャンネル 特集「映画人・岡田裕介を偲ぶ」ならびに
その中で再放送された番組「日本映画レトロスペクティブ」
- (2) 報告事項：時代劇専門チャンネル オリジナル番組「帰郷」NHK-BS8Kにて放送

5. 議題（1）

1970年に東宝映画『赤頭巾ちゃん気をつけて』で俳優デビュー後、深作欣二監督の『火宅の人』などに出演した岡田裕介氏。88年東映入社後は、高倉健・吉永小百合初共演の話題作『動乱』や、吉永小百合主演『北の零年』などをプロデュースし、東映東京撮影所長を経て、2002年には東映社長に就任。14年から東映グループ会長を務め、日本映画製作者連盟会長なども歴任。昨年11月吉永小百合主演『いのちの停車場』打ち合わせ中に倒れ、急逝。享年71。日本映画専門チャンネルでは、岡田裕介氏の足跡を辿る追悼特集を企画、俳優としての代表作『赤頭巾ちゃん気をつけて』、主演とプロデューサーを務めたATG映画『呐喊』、松竹での出演作『しなの川』、そしてプロデューサーとしての代表作『動乱』をラインナップし、更に2012年に当チャンネルで制作・放送した、岡田裕介氏が映画人生を語った貴重なインタビュー番組「日本映画レトロスペクティブ」も併せて2021年2月に放送した。

【審議ポイント】

■過去に制作されたインタビュー番組の再放送の是非、今後の再活用法などについて。

6. 議題（1）審議内容 ※文中敬称略

- ・岡田のインタビューに始まり、主演作、プロデューサーとしての3作品を通して観ることで、岡田の映画人生を俯瞰することができた。
- ・貴重なインタビュー群をどう生かすべきか。シリーズを定型化し、専門チャンネルとして情報優位性を持つことが大切だ。
- ・主演俳優がプロデューサーを経て放送時は社長になっている。いくつかの視点が交錯しながら作品を振り返る面白さは際立っている。笠井アナウンサーの解説も的を得たもので楽しめた。この種のプッシュ型マーケティングをもっとうまく活用できないか。
- ・ノンポリのお坊ちゃんが主人公となるこの映画には当時、激しく反発した。しかし、半世紀ぶりに見直して、「あれも青春、これも青春」と思った。
- ・岡田裕介がインタビュー中に、銀座の街を歩くシーンを時間をかけて撮影したと話していたが、一見意味のなさそうなカットが小説でいうところの行間のように思えてきた。
- ・ノンポリの自己弁護のような小説、映画が支持されたのは、一方に大阪万博が象徴する経済繁栄を謳歌するマジョリティの存在があったということか。怒らない、戦わない現代の若者の素地があるようにも思え、彼らに感想を聞いてみたい。
- ・俳優、監督とは異なり、プロデューサーを追悼するのは難しい。一般の視聴者は映画のプロデューサーが誰だったのかあまり関心がないだろう。だからこそ、インタビュー企画が生きた。
- ・膨大なインタビュー番組が追悼番組以外で殆ど再放送しないというシキタリは、ウカツにも知らなかった。改訂版にしてもよいからどんどん再放送すべきだろう。
- ・配信が中心になっていく中で、放送ならではの強みを最も生かせる番組とも言える。監督や俳優にスポットライトを当てて、特集を組めるのも放送ならではの企画なので、その際にインタビュー番組が付くと、さらに企画の価値が高まるように思う。
- ・ラスト近く、夕闇が迫る雑踏の、あの迷子のような感覚が、どれほど周到に重ねられた現場の営みの所産であったのか。それを知ったとき、映画を観る悦びがひたひたと迫り、作り手と観客の間に確かな交歓が成立した嬉しさが満ちてきた。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・映画の持つ色褪せない力を改めて感じる機会となった。功績を称え、追悼企画を立案したが、製作者の追悼企画ということで、本編だけでは企画意図が視聴者に伝わりづらいと考え、岡田自身が出演し、インタビュー内容が大変良かった2012年の自社制作番組「日本映画レトロスペクティブ」を、東映の許諾を得て、再放送するに至った。自社制作番組の再放送や二次利用については、概ね賛同を得られたと考えている。開局して20年以上、日本映画史に残る俳優や監督の貴重なインタビューをチャンネルは番組化しており、その数は膨大だ。旧作の企画を立案する際には、映画本編と併せてインタビュー番組等の再放送も柔軟に取り入れていきたい。また、自社制作番組のフォーマット化については、これまで発想になかった。いただいた先生方のご意見を参考にしつつ、インタビュー番組の活用法について更に社内で検討していきたい。

7. 議題（2）報告事項

【時代劇専門チャンネル オリジナル番組「帰郷」NHK-BS8Kにて放送】

時代劇専門チャンネルのオリジナル時代劇第20作「帰郷」。藤沢周平による老渡世人の姿を描いた傑作短編小説を、主演の仲代達矢をはじめとする豪華キャストで映像化した。監督は杉田成道。史上初の8K時代劇として制作され、死生観や贖罪をテーマに、味わい深い作品となった。2019年10月、フランスはカンヌの「MIPCOM」にてアジア初のワールドプレミア、日本では同年11月に東京国際映画祭にて凱旋上映、2020年1月に全国劇場公開後、同年2月に時代劇専門チャンネルにて放送され、大きな話題を集めた。そして2021年1月、NHK-BS8Kにて本番組が放送された。NHK-BS8Kで8K制作の時代劇が放送されるのは開局以来初であり、本番組の国内外での高い評価をご理解いただけたものと考えている。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2021年5月18日15時より開催予定。